

製品リサイクルへの取り組み

理想科学は、「使用済みの製品は廃棄物ではなく、貴重な資源である」との考えのもと、使用済み印刷機や使用済みインクボトルの回収・リサイクルシステムを整備し、循環型社会の構築に積極的に取り組んでいます。

解説1 マテリアルリサイクル

リサイクルには、大きく分けてマテリアルリサイクルとサーマルリサイクルの2つの手法があるといわれますが、プラスチック業界では、マテリアルリサイクルを「材料リサイクル」と「ケミカルリサイクル」に分類し、高炉原料化、油化、ガス化をケミカルリサイクルと位置づけています。

解説2 ケミカルリサイクル

ケミカルリサイクルは、新しいリサイクル手法で、一般的にはまだあまり知られていませんが、廃プラスチックを化学原料に戻して再利用することです。

使用済み製品のリサイクル

2007年度の使用済み製品の回収・リサイクルの実績は、2006年度比で、デジタル印刷機で2%、インクボトルで2%、回収量合計では3%向上しています。(右のグラフ参照)

今後も、回収量およびリサイクル量の拡大に継続して取り組みます。

デジタル印刷機のリサイクル

市場から回収されたデジタル印刷機を分解し、消耗部品と再使用部品に分別します。消耗部品は新品と交換されますが、再使用部品は当社の品質保証基準に基づいて検査され、合格したものが洗浄・塗装後、再度、製品に使用されます。組み上がった製品は、リサイクル機として厳密な品質チェックを受けた後、リサイクル製品として出荷されます。

再使用できない部品に関しては外部業者に委託し、再資源化しています。2007年度において市場から回収されたデジタル印刷機一台について、再使用される部品の割合は、91%、再使用できない部品で再資源化される部品は8%(重量比)となっています。



デジタル印刷機全部品の再使用、再資源化の内訳

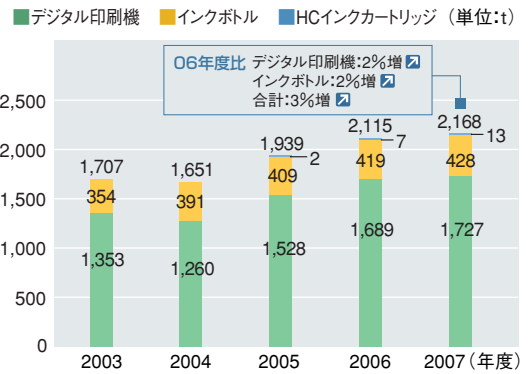
インクボトル・インクカートリッジのリサイクル

当社は、日本国内で使用済みとなったインクボトル・インクカートリッジを市場から回収し、マテリアルリサイクル(解説1)やケミカルリサイクル(解説2)により資源の有効活用を図っています。

HC5000およびHC5500インクカートリッジのリサイクルフロー

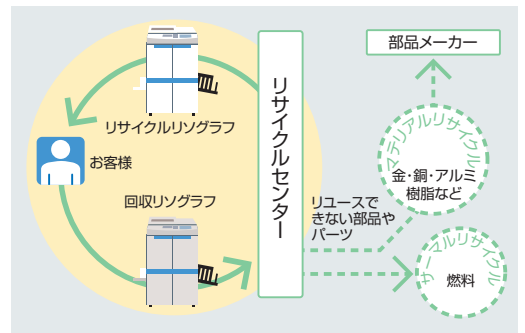


使用済み製品の回収・リサイクルの実績



集計範囲：日本国内の使用済み製品を対象に集計しています。但し、デジタル印刷機のリユースとしてのレンタル機の返却・回収を除いています。

デジタル印刷機のリサイクルフロー



インクボトルのリサイクルフロー

